

(様式第1号)

## 自己評価及び外部評価結果票

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4191400029		
法人名	社会福祉法人 天寿会		
事業所名	玄海町グループホーム玄海園		
所在地	佐賀県東松浦郡玄海町大字平尾380番地1		
自己評価作成日	平成30年4月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp">www.kaigokensaku.mhlw.go.jp</a>
-------------	------------------------------------------------------------------------------

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成30年5月18日	外部評価確定日	平成30年6月21日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>当グループホームは昨年7月にオープンしたばかりの新施設です。特別養護老人ホーム玄海園と同一敷地内にあり、2階建ての建物で、地域包括支援センター、社会福祉協議会のデイサービス、宅幼老所、高齢者住宅、そして当グループホームからなる複合施設となっています。眼下には玄界灘が広がり潮風を感じると共に、施設全体が年間を通して花や緑に囲まれている自然豊かな環境にあります。</p> <p>スタッフは開設に伴い採用された職員が多く、これまでは利用者様のことを把握し、安心、安全な暮らしを送って頂くことに努めてきました。今後は趣味や楽しみへの支援、地域との関わりの支援などに力を入れて行きたいと計画しております。</p>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>玄海町のグループホームは当事業所を入れて二棟。先に開設した事業所は同じ敷地内にある。そこが作り上げたノウハウを踏襲しつつ、独自の特色も出そうとしている。また、業務の効率化は法人の特長でもあり、タブレット型コンピューターの導入もそのひとつである。一括調理による提供で自炊する時間が省かれたことも職員にゆとりを与え、ケアへの相乗効果となっている。定時に帰ることが難しいと言われる介護の現場で、事業所ではそれも可能にしている。業務の優先順位や時間配分などの見極めが各々に備わり、管理者のリーダーシップと職員同士のチームワークの良さも窺える。課題には全員で話し合い、自分の考えを発言することでやる気にも繋がっている。間もなく開設して一年になるが、四季を過ごした後のこれからが楽しみな事業所である。</p>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念に基づきグループホームの目標を作成している。目標や理念は各職員が職員ノートに記載し共有、実践している。	法人で統一された理念が根幹にある。それに沿いながら、また、家族の意見や要望もヒントとなり、事業所独自の目標も掲げている。法人から各職員に配布されるノートの最初のページには理念や目標を自書し、自身の目標まで記すことが義務付けられている。職員が常に携行するノートであり、開く度にそれらが目に入ることで意識付けとなっている。開設して一年足らずの事業所ではあるが、管理者のリーダーシップと職員同士のチームワークの良さも相俟って徐々に玄海園らしさが生まれ、ケアに活かされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者様の外出支援はこれまであまりできていないが、地区の理美容室からの訪問理美容、地区のパン屋の訪問販売がある。また、母体施設への舞踊や婦人会、保育園などからの訪問の際には合同で参加している。また、母体施設での季節の行事にもその都度、参加している。	広い敷地内に複数の施設があり、法人全体として地域貢献は行われている。近隣住民を招く行事(夏祭り等)はもとより、認知症サポーター養成講座では小学校にも出向いている。地域の一員として専門知識を活かした貢献となっている。また、地区の細かい情報は運営推進会議の折にメンバーから報告されたり、地元に住む職員や防災無線からの情報もある。鬼火焚きなどの季節の行事にも一緒に出掛けている。日常の買物に同行してもらうことで馴染みの人達との交流も出来るよう支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトの資格を活かし、地域の方へ認知症の理解や支援をして頂けるように認知症サポーター講習を実施しており、今年度も計画している。、婦人会、民生委員会、小中高校生と幅広い町民を対象としている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回実施し、入居者様の状況や施設内での取り組みなど報告を行っている。また、運営推進委員様からの意見も頂戴し、その議事録は事業所全体の上司や当グループホームスタッフ全員への回覧による報告を行っている。サービスについての意見や指摘事項などあった場合には、月1回のグループホーム会議にて検討するようにしている。	同じ敷地内にある二つのグループホーム合同の会議である。約一時間を要し、事業所からの報告や意見交換が行われている。メンバー同士が顔見知りとなり相談し合う場面もある。運営等を知ってもらうためにも家族の出席者を募り、現在は手を挙げてくれた方々をお願いしている。発言がしやすいような問い掛け方など工夫し、外部の人の目が入る貴重な機会を活かそうとしている。メンバーからは、専門知識を持つ事業所への期待も感じられ、出前講座などの依頼にも応えている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	分からないことや困難な時には連絡を取り情報源としている。運営推進会議にも参加して頂いている。	同じ建物内に地域包括支援センターはあるが、メインは役場内にあり、担当者とは直接出向いたり電話やメールでのやり取りは常にある。大きな法人のため知識を有する人材も多いことから、内部で解決策が見えることもあるが、行政側とは実直に対応してもらえる関係も築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	母体施設に高齢者虐待防止・身体拘束検討委員会が設置されており、当グループホームからも委員を選任している。月1回、グループホーム会議で身体拘束に対するケース検討を行い、その内容を身体拘束委員会で報告、再検討してもらっている。その議事録は施設全体に回覧される。また、新入社員には身体拘束についての勉強会が計画されている。 当グループホームの玄関には施錠せず、建物全体の玄関は日中は自動ドアになっている。	指針があり入居契約時には説明も行っている。職員は年に一度は研修を受け、法人の委員会も有効に機能している。例えば、毎月の職員会議で事例を挙げ、身体拘束等に該当するか否か、必要であれば改善策までも話し合いパソコン上にアップする。委員会ではそれを検討し、判断後に返している。その流れは些細な事例でも見逃さず、身体拘束はしないという職員の意識付けにも役立っている。また、玄関に施錠はなく、仮に外へ向かう利用者がいても無理に引き返すことはせず、暫く一緒に歩くというのが基本である。行動を抑えることはない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記同様に月1回のグループホーム会議において虐待に繋がるケアについて検討し、委員会にも報告を行っている。施設全体の研修会で虐待に対する勉強会も行われており参加している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設全体での研修会において年1回は社会福祉士により講義を受けている。現在、対象者はいないが成年後見制度のパンフレットを設置し、活用に繋がるように働きかけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	資料などを用いて丁寧に説明し、施設利用に対する不安なども伺い緩和できるように努めている。また、施設での生活における個人の希望なども伺い可能な範囲で受け入れている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	当グループホームの玄関に、ご意見箱を設置している。運営推進会議に2名の家族様に参加して頂き意見を頂いている。また、年2回実施予定の利用者様と家族様の交流会の際に家族会議を開催し、家族様の要望や意見を伺い、入居者様の支援に活かす様にしている。	家族の来所は多い。シャンプー等の日用品を敢えて個人負担とし届けてもらうなど来所を促している。毎月発行の法人便りには家族へ宛てたメッセージ欄があり、利用者毎の担当職員が近況等を添えている。家族からはそれを楽しみにしているとの声も聞かれ好評である。事業所では家族と直接会える機会も大切にしており、世間話などを交えながら話しやすい雰囲気づくりに努めている。外出を増やしてほしいという意見には、インフルエンザも治まったこれからの時期で検討し、独自の家族アンケートや家族会を通し出された意見にも真摯に向き合う体制がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム会議や年2回、直属上司との面接で意見を聞く機会を設けている。それ以外でも相談がしやすい様に、一緒に仕事する際は、上司から声を掛け話し易い雰囲気づくりに努めている。	月一回の職員会議は90分程度、当日の出勤者で開かれている。限られた時間をスムーズに進めるための工夫として、話し合っしてほしい事や提案があれば事前に申し送りノート等を利用し各々が挙げている。会議の記録様式はオリジナルで、カンファレンスとしても活かせるようになっており、決め事では、誰がいつ(時間など)と具体的に決めている。また、管理者としては働き易い職場であるよう配慮も必要で、コミュニケーションも図りつつ、休憩時間をきちんと取る事や定時で帰る等々を実践している。現場の声は管理者を通して法人の上席へも届けられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員に年間及び半年の目標を立ててもらい、年2回評価を行うことで、本人の実績、達成度、努力などを把握する機会を設けている。その評価は給与に反映されている。また、時間外の削減の取り組みや有給休暇も積極的に取るように働きかけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員に年間を通じた目標を立ててもらい、目標達成に必要な働きかけや、内部、外部の研修などに参加する支援を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月1回程度、母体施設と合同で開催している研修に参加することで、サービスの質の向上やネットワークづくりに努めている。今後、外部研修会や交流会があれば参加を予定している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様や家族様に入居前に見学に来ていただき、話し合いをし、不安な事や要望などを聞き、安心して頂けるよう関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の見学や相談時にはゆっくりと話を聞き丁寧な説明をし安心して頂けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必ず事前訪問を実施し入居者様の状態や生活の様子など情報収集を行って、入所当日から安全に、安心して過ごして頂けるように努めている。また、必要なことはケアプランに入れ対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	金銭の管理(嗜好品の買い物代行)、洗濯物たたみ、配膳、下膳、塗り絵や折り紙、毎月のカレンダーづくり、カラオケ、運動教室への参加、おやつ作りなど、限られた中でも入居者様ができること、得意なこと、興味のあること、能力などを見出し、それが発揮できるように誘導を行っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様が来所された時は、家族様と過ごす時間を大切にしている。近況報告や相談等も行っている。電話の取り次ぎの際にも日頃の様子を伝える様にしている。また、家族交流会を開催したり花見ドライブに家族様にも声かけをし参加して頂いたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様や友人、知人の面会を支援したり、家族様と馴染みの美容室に定期的に行かれるのを支援したりしている。また、定期的に自宅へ外出される入居者様の支援も行っている。	初期対応の事前訪問は情報収集に役立っている。それに加え担当のケアマネージャーや利用していたサービス事業所、病院関係者からも話を聞くことがある。それらを基に支援される具体的な例として、馴染みの美容院へ通うことや定期的な帰宅などが挙げられる。また電話の取次ぎはいつでも可能であり、正月の帰宅(宿泊も)や法事への出席もある。事業所を利用していてもこれまでの繋がりが継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士で落ち着いて過ごされるように、リビングで腰かける位置、食事で腰かける位置、運動やレクリエーションで過ごす位置など、常に気を配り誘導している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスを終えられた時には「困りごとがあったら何時でも連絡して下さい」と声かけをしている。現在まで退去された方は2名であり、施設や病院、ケアマネの紹介を支援している。		

### Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃のかかわりの中で訴えやご希望には耳を傾ける様にしているが、入居者様が話しやすい様に、入居者様一人ひとりに受け持ちのスタッフを付け思いや気持ちをゆっくり伺う様にしている。入居者様からの意向に対してはグループホーム会議で検討し思いを添える様に努めている。	利用者が想いを話してくれるのは一対一で接している居室を訪ねた時や入浴中の寛いだひとときに多い。職員はそれぞれが担当している利用者に対して積極的に関わりを持ち、日々傾聴を重ねている。利用者がふと口にしたことでも心に留め置き、職員会議や申し送りノート、口頭でも伝え合い共有を図っている。そこからケアプランに反映させた例もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前訪問や面談の際に、アセスメントシートを活用し入居者様や家族様に生活歴など尋ね把握している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の入居者様の様子を個別の経過記録や申し送りノートに記載し把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成時には家族様からの要望を聞き課題を見出している。また、グループホーム会議でも検討を行い必要に応じてプランに反映している。	ケアプランの設定期間は、入居して間もない頃は毎月の見直しとし、現在は全員が六ヵ月毎となっている。その間に変化があれば臨機応変な対応も行っている。本人の希望は日頃のケアの中で把握し、家族の要望等は来所時や電話での会話から汲み取るようにしている。家族からは具体的な要望というより、健康で暮らしてほしいというものが多い。職員にとって使い慣れた用語でも家族には耳慣れないこともあり、今後は意味を説いていく必要性も感じている。数年を掛けて使いやすく考案されたオリジナルの個別援助計画書もあり、モニタリングも毎月行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別援助計画を基にケアを実践し、個別記録に実践、結果、気づきなど記入して職員間で情報共有している。また、個別援助計画は月一回の会議の際に見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る範囲で利用者様や家族様の希望や意向に柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	これまで不十分だったので、今後力を入れて取り組んでいきたいと思っています。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関からの定期的往診以外で受診が必要な場合は、必ず家族様に連絡を取り、受診介助している。可能な限り家族様にも同行してもらっている。場合によっては家族様に受診に連れて行ってもらうたりもしている。同行されなかった場合は、受診後に必ず電話等で結果を説明している。現在、協力医療機関以外のかかりつけ医を希望される方はありませんが、その場合も同様に対応します。	現在、かかりつけは全員が協力医である。入居時に変更した人もいるが、きちんと説明を受け納得のうえである。他科受診の場合もまず希望する病院を尋ねている。かかりつけ医である協力医へも相談し、紹介状が書かれることもある。事前の家族アンケートでは、医療面について心配な点は全くないと答えた人が殆どで、受診後の結果報告も含め、安心感と信頼を寄せている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常勤しているため、何かあれば報告、相談して指示を受けている。更に、協力医療機関との連携により必要な受診や治療が受けられるように支援できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院になられた際は、主治医や看護師、医療連携室の相談員などに情報提供を行っている。入院中も様子を見に伺ったり電話などで情報を伺ったりしている。また、退院が近くなった際は連絡を貰い、病院にて退院時カンファレンスに参加したりしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に急変や重度化した場合の対応についても説明し、入居後も家族会など機会がある時に説明をしている。また、救急受診した際なども再度説明し家族様の意向を確認するようにしている。家族様の意向は主治医とも共有し支援していくようにしている。	開設して一年未満でもあり、まだ看取りの経験はない。今後、希望があればその用意はある。家族間の意思統一や不安解消のためにも、かかりつけ医(協力医)が利用者の状況とターミナルケアについて説明を行うこともある。その結果も踏まえ、隣接する特養施設も選択肢のひとつであると説明している。職員の勉強会も計画しながら、容態の変化に伴い話し合いを重ねる事や、安心して納得した最期を迎えられるよう支援する事を旨としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	開設して1年未満であり勉強会の機会も少なく実践力は不十分。現時点では看護師にその都度に教えてもらい対応している程度で、今後、定期的な勉強会を行っていきたいと思っています。		



自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災管理マニュアルを作成し昼・夜間想定で年2回避難訓練を実施している。地域の消防団にも協力してもらい、体制もできている。原子力防災訓練にも開催時には参加している。	広い敷地内に複数の施設が建つ環境である。年二回の訓練は合同で行い、火元設定は交代にし、自施設の時のみ利用者も避難を体験することになっている。時間帯は昼間と夕暮れも過ぎた19時頃。消防署や地元消防団の協力も得て、また職員も一旦帰宅後に一斉連絡網での召集となり、駆けつけるまでの時間把握も行っている。大規模な施設での訓練は消防従事者にとってもリアルな体験となっている。警報ベルが作動すれば自動的に通報するシステムが導入されており、スプリンクラーや誘導灯の設置もある。原子力発電所に近いことでシェルターを備えた特養施設内には非常食や水の備蓄もある。訓練での課題や反省点は速やかに委員会で検討され、パソコンの掲示板にアップされる。各々のIDでアクセスするため未読者の把握が容易で周知漏れも防いでいる。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重した声かけを常に心がけている。また、プライバシーにも配慮している。	トイレや入浴の介助では最も羞恥心への配慮が必要で、周囲に見え難い立ち位置でのケアやドアは閉めるなど基本的な事をきちんと行っている。また、入室の際には必ずノックをする、地域の行事へ出掛ける時にも家族の確認をとる等々、細かい配慮もごく自然に行っている。接遇や、個人情報の取扱いに関しては法人の勉強会もあり職員の意識は高い。法人便りや事業所内での写真掲載、居室の名札表示も入居時に承諾を得た人のみである。職員同士の会話には業務内容(個人情報)が含まれることも考慮し、声の大きさにも注意を払っている。利用者へ行動を促すような声掛けであっても同様である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆっくりと分かりやすい言葉で気持ちや希望を聞くようにし、表情や仕草などからも思いが分かるように、また、自己決定しやすい様に働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの能力、ペースを大切にし、その時々で希望される様に過ごして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服選びができる方は選んでもらって更衣して頂いている。洗顔や整髪など、できない所を介助して身だしなみも整えている。季節に応じた服選びも心がけている。散髪は訪問理美容を本人や家族様の希望を取り入れて利用して頂いたり、定期的に地域の美容室へ家族様と行かれるなどしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は母体施設厨房にて一括調理されたものをホームでつぎ分けて、食べやすくしたり量を調整したりして提供している。嗜好についても情報提供し嫌いなものが提供されない様に配慮している。準備や片付けが可能な方には手伝ってもらっている。	敷地内の複数の施設全てが一括調理され配膳を受けている。ただ、近くで山菜などが採れたりすると独自に一品増やしたり、家族からの差し入れ(果物など)があればおやつで提供している。通常、事業所では炊飯のみ行っている。利用者の好き嫌いやアレルギーの有無の把握は出来ており、苦手な食材には代替えが用意される。自分で口へ運んでもらえるよう介助は最小限に留め、声を掛けて促している。職員は持参の弁当で同席したり、介助のみで同席しながら会話も和やかである。下膳など出来ることを手伝う利用者もある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	3食共に母体施設厨房にて管理栄養士によりバランスのとれたメニューで提供されている。水分は食事時や食間、入浴後等、適時に提供しており、摂取された量は記録に残し把握している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に一人ひとり声かけし、理解できない方や自力移動できない方は、居室まで誘導し行ってもらい不十分な所を介助している。また、2週に1回、訪問歯科Dr. による口腔ケアの実施とその指導も受けている。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	オムツ使用の方は排泄の量やパターンを把握して適切なアイテムを選択し適時に交換できている。 ベットサイドで自力排泄出来る方にはポータブル設置し適時に処理も行っている。 リハビリパンツやパンツを使用されている方も、仕草やタイミングから排泄のサインを見逃さず、声かけ誘導できており失敗も少ない。	排泄に関してほぼ自立している人も含めると三名程だが、任せたままではなく、さりげない見守りも行っている。日中は出来るだけトイレでの排泄を主とし、オムツやパット類が必要な人は自室のトイレを使用している。日々の把握とケアにより紙パンツから布へ改善した例もある。また適切な誘導により使用枚数が減ることで費用の軽減となった例もある。居室内、共用どちらにも便座回りには手摺りや可動式ひじ掛けの設置がある。補助具により立ち座りを助けることは自立を促すことにも繋がっている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、朝食にはヨーグルトを提供し、10時の水分補給では牛乳を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴時、出来る方には着替えの準備をして頂いている。週2回は入浴して頂いているが、体調や希望によって別日に変更したり、清拭や足浴で対応したりしている。	入浴は週2回を目途にしているが、風呂の準備は毎日できているため、希望があれば可能である。入浴はひとりずつ寛いでもらい、入浴しない日でも下着の交換は毎日行い、清潔保持に努めている。浴室にはリフト浴の設備があり、浴槽の縁をまたぐのが難しくなっても安全な入浴支援が出来ている。また、浴室内に衣類乾燥機能があることで冬場のヒートショック対策にもなっている。着替えを用意する入浴準備や、衣服の脱ぎ着など出来る事は本人に任せ見守っている。脱衣場は広く、安定感のある椅子が置かれ、個別にシャンプー類が置ける棚もあり整頓されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝、起床、日中の休息など自由にされている方もいれば、睡眠や生活リズム、その日の状態を把握し休息をとって頂く様に声かけ、誘導する方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されている薬については看護師より周知されている。また、分からないことはいつでも確認できる様にしている。内容の変更や追加などの際も、その都度、看護師が説明している。服薬方法なども、看護師とスタッフ間で検討し、一人ひとりに合った方法で確実に服用して頂けるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合った、また、希望される役割を提供し支援している。また、複数や全員で楽しめることも日々支援している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外へ出たいと希望されたり、その様な行動が見られた際は可能な限り付き添っている。当ホームが開所して間もないことと、インフルエンザの流行で外出を控えた期間が長くなり、敷地外への外出の支援が思う様に出来ていない。本年度より週一回外出の日を設けて、行事や買い物、希望される所への外出を全体及び個別に支援していきます。	本人の口から外出の希望が聞かれたり、話題を振れば興味を示す利用者もある。日常的に敷地内の散歩は行っており、車椅子を杖代わりに利用者に押しってもらうこともある。のどかな自然の中に建ち、広い敷地には程よい坂道もある。敷地の外へ出掛けることは、家族の要望等もあり徐々に増やしていこうとしている。車椅子利用者もいるが対応車両も用意できるため全員で出掛けることも可能である。全く外へ出ないという利用者はいない。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現時点でお金を所持されている利用者様は一人だけで他の方は管理が困難。買い物を希望されている利用者様はいらっしゃるので、今年度は支援していきます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望通りに支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの窓からはその日の天気や季節が感じられる。ベランダの方は日当たりもよく、窓越しに日光浴をしたり、風のない日はベランダに出てお茶を飲んで頂いたりしている。食堂の掲示板には毎月入居者様と手作りしたカレンダーや季節感のあるものを掲示している。	新築された建物の二階に事業所はある。リビングは広く、テーブル席やソファもゆったりとした配置である。脇には畳の部屋もあり、縁側は、程よい高さでベンチ風にも使える。廊下も広く、歩行を妨げる物はない。騒音はなく、日差しが強い時期にはレースカーテンで調節している。窓を開けて換気をし、11月から3月の感染症が危惧される時期には手を触れる箇所の消毒もこまめに行っている。共用部分の清掃は専門業者に依頼され、嫌な臭気はない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりが思い思いに過ごして頂けるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様にとって安心できるもの、実際に自分で管理できるもの、ご家族様が希望されるものなど、限られた空間の中ではあるが、その人らしい居室づくりを支援している。	火気等の危険物以外に持ち込む品物の制限はない。窓を開けて換気もし、掃除は毎朝職員が行っている。仏壇を持つ人には職員により花や水、仏飯も毎日供えられている。居室には家族の写真や花、また手を借りながら作った季節の飾り物などがあり、居心地よく過ごしてもらえるよう配慮が窺える。家族の希望があれば居室や和室での宿泊も可能である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体機能や認知症の状態を理解して安全かつ自立した生活を送って頂けるように工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)  
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。  (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。  (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。  (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。  (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。  (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。  (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない